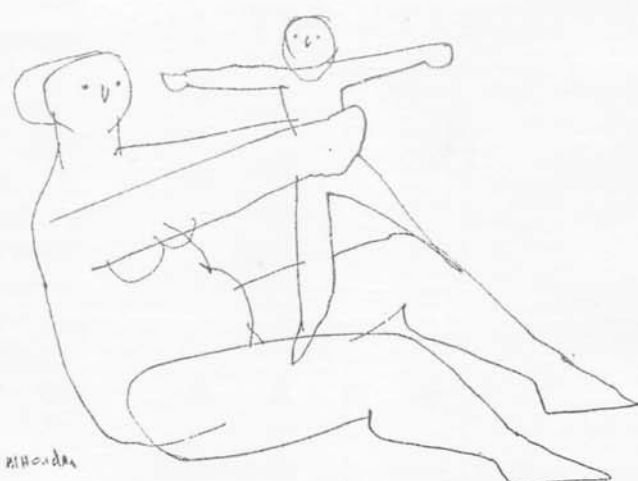


大通りのこと



本 郷 新

いつ頃からなくなつたのか知らないが、札幌の大通りには、3丁目に黒田清隆像、7丁目あたりに永山将軍?の像といずれも高さ3米以上もある台座の上に等身大の銅像が立っていた。幼少時代を札幌で過した人々にはなつかしいものである。肖像の人物がどんな政治家であれ、軍人であれ、造型空間として、大通りにアクセントを与へ、一つの美観でさえあつたのだ。私はよくあの銅像のまわりで、おにごっこをしたり、鉄の柵をガラガラ音をたてながら走つたりした。

物が所を得てある場合、それがその場所になくなると何かさびしいものである、まして彫刻のやうなたゞの物質とは異なるものは、その場所にあるとないでは大へんなちがひである。彫像をつくることが自分の職業になつたのは、幼少時見た彫像と何の関係もないのだが、何か、どこか、奥底の方でこの思い出はいまも温く生きているような気がする。

めぐりあわせとでもいうか、私はいま大通りにたてる彫像を作っている。11月に完成の予定だが、どんなことになるか、空間的には周囲とバランスのあわない大きなテレビ塔があるので、むづかしい場所である。

大通りは、いまでは花壇が美しく、市民の楽しい公園になつてきた、しかし、これをもつと計画的に、各1町四方毎に設計し、個性を与へ、テレビ塔から13丁目まで、芸術的な造園計画をやつてみたら、日本でもめづらしい面白い公園になると思う。

東西に長い、一つ一つ区劃のある土地の条件、1年の3分の1は雪の原となるという特殊条件など考へてみると、ここで、彫刻的造型と色彩の配慮が重要な意味をもつてくる。

全体的な配慮なしに、便宜的に、おそまつな彫像が所かまわず置かれたりすることが今までどこにでも見られたことであるが、大通りのようなところは、何とか、スツキリいきたいものだと考へている。

holbein

ホルベインの油絵具
ホルベインの画用液材
ホルベインの画材